

事務事業名	美術館資料収集・保管事業	事業期間	～	年度	係内番号	04
担当部署	生涯学習部	生涯学習課	文化芸術係	連絡先	632	

政策番号	基本計画体系	項目	計画CD	計画名称	施策の柱CD	施策の柱の名称	実行計画の施策の柱における指標との関連度	高
		基本計画①	01	教育大綱	0303	文化・芸術の振興と推進		
		基本計画②	02	生涯学習推進指針	0101	市民の学びを支える		
		実行計画	03	文化芸術推進計画	0302	芸術・メディア芸術作品の保存と活用		

予算事業名	美術館費	会計コード	01	款	10	項	05	目	02	事業	03
-------	------	-------	----	---	----	---	----	---	----	----	----

事務事業の概要  
 (簡潔にわかりやすく)  
 郷土出身及び郷土にゆかりのある芸術家の作品は地域の宝であることから、美術館では貴重な作品や関連資料を適正に収集・保存管理し、調査研究するとともに、魅力のある展示等を開催し、市民の文化芸術に対する興味や関心を高め、鑑賞や創造活動の拡大につなげていく。

現状と背景  
 (どうして)  
 美術館の管理は、指定管理者制度の導入により隣地域文化創造が行っている。美術館で所有している作品は、市の芸術的資産であり、「文化の香り高いまちづくり」に欠かせないものであることから、指定管理者と連携し適正な資料の収集・保管・修復を行う必要がある。

目的  
 受益者 (誰のために) 市民  
 対象 (直接働きかける) 指定管理者・美術品寄附等検討委員会・教育委員会  
 意図 (どんな状態にしたいか) 芸術財産の収集・保全をはかり調査研究に役立てるとともに、市民に広く公開し美術教育を実践する場とする。

手段・方法  
 (どうやって)  
 美術館としての機能を果たすための資料の収集及び保管、資料の修理修復等を行う。

評価指標の作成	活動指標	行政が活動することで作り出すもの				最終目標値
		指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など		
成果指標	1	美術品寄附等検討委員会の開催	開催数	回	年間の開催数	2
	2					
変更履歴	3					
変更履歴	成果・効果は何？				最終目標値	
	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など			
変更履歴	1	美術館収蔵作品展の入館者数	収蔵作品展の入館者数	人	年間の収蔵作品展（常設展）入館者数	6,500
	2	美術館収蔵資料数	所蔵作品数	点	年度末における所蔵作品数	1,300

実施状況	項目	単位	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
			事業費等(a)	円	2,443,919	1,887,000	
財源内訳	国庫支出金	円					
	県支出金	円					
	地方債	円					
	その他特定財源	円	6,768	3,000			
	一般財源	円	2,437,151	1,884,000			
活動指標	開催数	目標	回	2	2		
		実績		1			
		達成率	%	50.00	-	-	-
	-	目標	-				
		実績	-				
		達成率	%	-	-	-	-
成果指標	収蔵作品展の入館者数	目標	人	6,500	6,500		
		実績		7,273			
		達成率	%	111.89	-	-	-
	所蔵作品数	目標	点	1,300	1,300		
		実績		1,179			
		達成率	%	90.69	-	-	-
備考							

事務事業名	美術館資料収集・保管事業		事業期間	~	年度	係内番号	04
担当部署	生涯学習部	生涯学習課	文化芸術係		連絡先	632	

項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
中 評 価 課長評価日	当年度開始後、約5ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化				
	新年度の実施計画・予算要求事項(改革・改善策)				
	翌年度方向性	成果			
		コスト			

項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
事後 評 価 C H E C K 改 革 ・ 改 善 の 方 向 性 ( A C T )	<p>～成果～</p> <p>変果</p> <p>動指</p> <p>要標</p> <p>因分</p> <p>～析～</p> <p>市制施行60周年記念企画展で東山魁夷作品の展示を行ったことに付随して、収蔵作品展への入館者も前年度の6,118人から今年度7,273人と大幅に増加した。また、13点の寄附申込を審査し、うち10点を受け入れ、所蔵作品数は1,179点となった。</p>				
	<p>総合評価</p> <p>成果</p> <p>課題</p> <p>現在、美術館の資料収集は寄贈に頼っている状況であるが、今年度も貴重な作品10点を受入することができ、特色ある作品展の開催に結び付けることが可能となっている。</p> <p>公立美術館の役割である資料収集、作品展示、調査研究のうち、資料収集について市が寄附等検討委員会を設置し受入の審査を行っている。市の収集方針による適正な収集と活用ができるよう指定管理者との連携が必要。</p>				
	<p>翌々年度方向性</p> <p>成果</p> <p>コスト</p> <p>拡充</p> <p>現状維持</p>				
	<p>改革・改善の方向性の内容</p> <p>郷土出身作家の特色ある作品を多く収蔵する館として、その作品を広く活用し、市のアピールにつなげていく方策の検討が必要。また、令和3年度で期間満了となる保管料契約についての検討が必要。</p>				

作成担当者	北澤 ゆき子				
最終評価責任者	藤森 隆				
最終評価年月日	2019年5月17日				